

# 隠しごととぶたつ

BUNGO STRAYDOGS UNOFFICIAL FANBOOK R18



くら!

よっ



難しいなあ

はあ  
なんて疾い



またやってる...

あんなの捕まえて  
何になるってんだ...



私も駄目だ

こんなに小さな  
虫けらも捕まえられない  
ようじゃあ



そういう時は わりかし 楽しそうな目をしていたと思う





つまらない

そう云いたげな顔  
だった

人間には予測  
不能だ

虫は面白い  
奇妙な動きを  
するし、



いつまで眺め  
てんだよ  
仕事だぞ

この世に失望  
している顔だった

はみ

厭だなあ



私もカマキリに  
なって

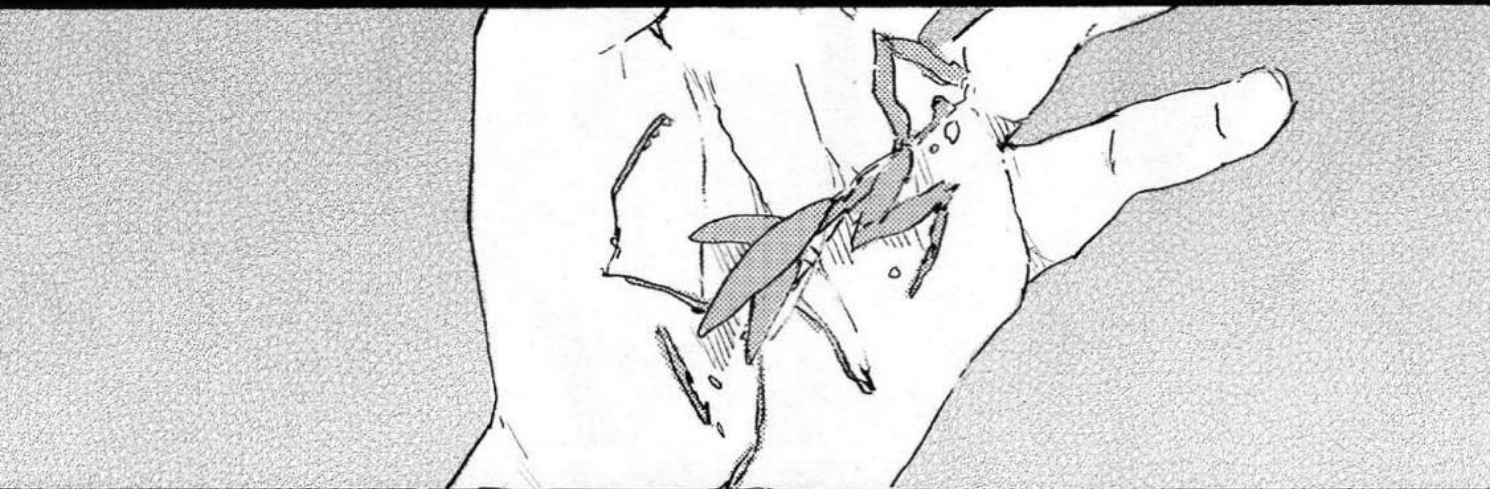
虫かごに  
囚われない  
ものだよ

全く分かりやしねえ

何が面白いんだか



虫を殺した



人殺しが 虫を一匹殺したくらい 何だ



普通の人間でも 何十匹と 虫を殺しているはずだ



ねえ中也

でも



せっかく毎日  
可愛がっていたのに

蓋は開いているし

誰の仕業  
だろうね



私のカンタロー  
知らない？



…はあ？

カマキリ虫だよ



そんなことより  
報告書

どうでも  
いいつつの

…知るかよ  
んなもん

カマキリを殺してしまったことを 何年も 俺は太宰に云えなかった

kakushigoto futatsu

# 隠しごとふたつ

目次

狂わされた日	10
プライス・セックス	22
ちゃんと殺してよ	32
隠しごと、ふたつ	43

狂わされた日

ちゃんと  
殺してよ

プライス  
セックス

隠しごと、ふたつ









いつものことだった



死にたい死にたいと嘆くこの男に 死ねよと云ってやるのは



この日ばかりは いつも通りにはいかなかった







ここから  
突き落とすだけ  
でいい

押すだけで  
いいんだ

…自殺くらい  
手前一人でやれよ



わざわざ人のこと  
巻き込んでんじゃ  
ねえ



……っ  
手前が！

死にてえ死にてえ  
うっせえから  
云ってやったんだろが！



死ねと云ったのは  
君じゃないか！



だっ……

太幸

手前  
本気で……!



私の最後の  
お願いくらい

聞いてくれない  
いいだろう?



私が勝手に  
飛び降りたと  
云ってくれていい

君に少しでも  
罪悪感が  
残ればいい



とびきりの

最後の  
嫌がらせだ

死にたがりのこの人間は 何彼無し ひどく美しかった



…ほざけ

手前が

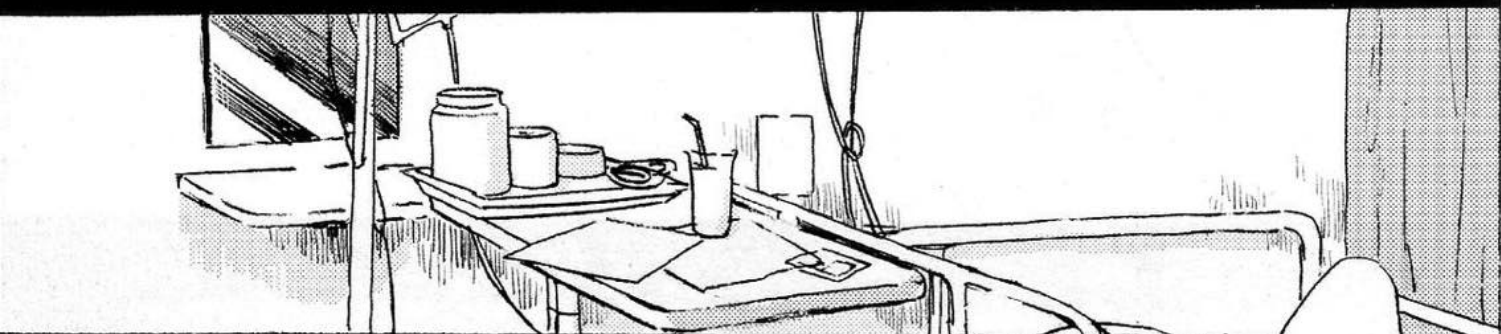
こんなところで  
死んでいい訳が  
ねえ……







俺はこの人間のせいで 人生を大いに狂わされちまった





中也…

中也のせいだよ



ね

ちゃんと  
殺してよ

…お陰で何も  
出来やしない



絶対に  
許さない

狂わされた日



キモチい

ンッ  
あ~~~~

はあ



ノ♡

ハッ

女の子の方が  
上手にやるさ

だって中也  
下手すぎるよ  
キコキ



うふふ

わざとらしい声  
あげてんじゃないエ  
丸かき

あ  
ハッ  
ハッ



包帯もね

ね、  
脱がせて  
くれない？





中也が私に  
作った傷だ

どうだい？

背徳感  
あるかい？



……はっ

キスマーク  
つける間でも  
ねえな

楽で  
助かる



いっぱいつけて  
くれていいのだよ

そんな怖い顔  
しないでくれ給え

心配しなくても



「君のことは  
一生許さないから」



……ン



はあ

入んない…

はあ

うー…

はあ

…っ







はあ~~~~~

はあっ

気持ち良かった……

は……

早えっての

クソッ  
出すの、  
はあ



あっ

んんん

せんん



こんなところ  
弄られて  
いい声  
出してんじゃ  
ねえよ

はっ

はあ







セ  
ツ  
ク  
ス

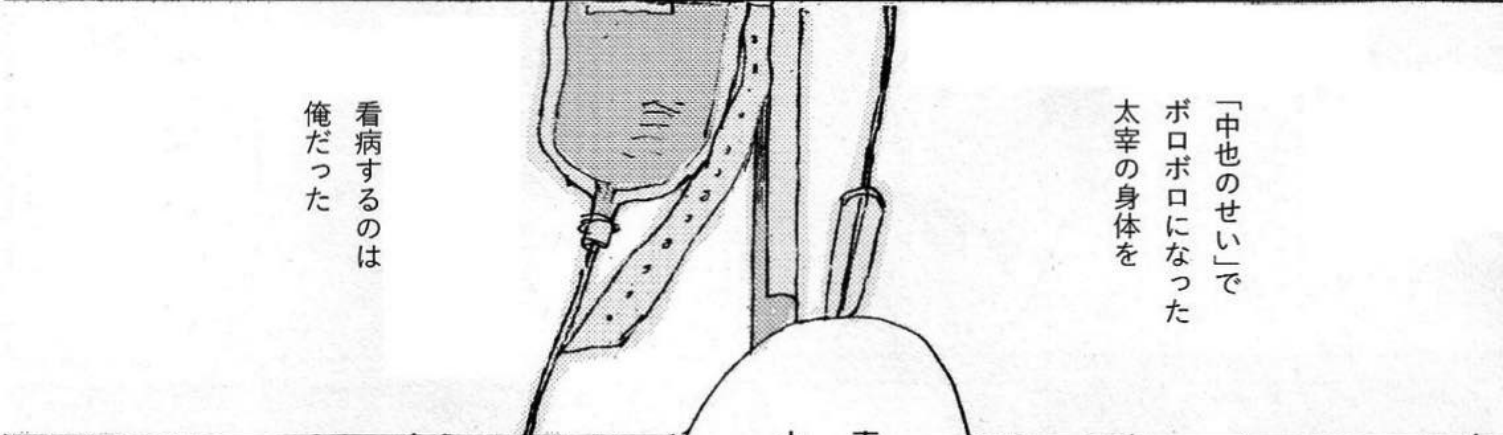
プ  
ラ  
イ  
ス

ちゃんと殺してよ



内臓破裂

全身骨折



看病するのは  
俺だった

「中也のせいで」  
ポロポロになった  
太宰の身体を

中也  
責任とってね



正直、生きてただけで安堵した 太宰の身体を見るまでは



早く  
巻いて

泣いてないで



俺に擦り  
つけんな

言い逃れは  
やめなよ

手前が勝手に  
死にたがったん  
だろが...

全部



太宰にしては

筋の通っていない  
話だと思う

場所を選んだのも

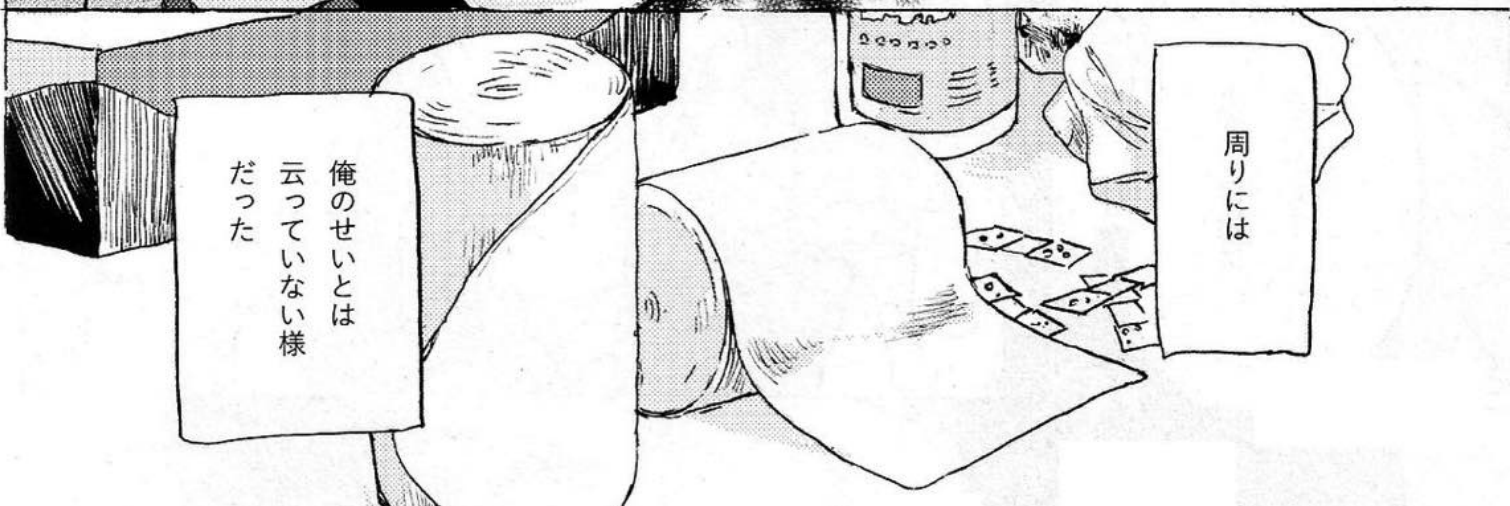
落とせと云ったのも  
此奴だった



あんなの  
不可抗力だろ...

太宰の容態は  
どうかえ?







自分も 思春期 とかいうやつなのか



つい、いろんなところを 見てしまう





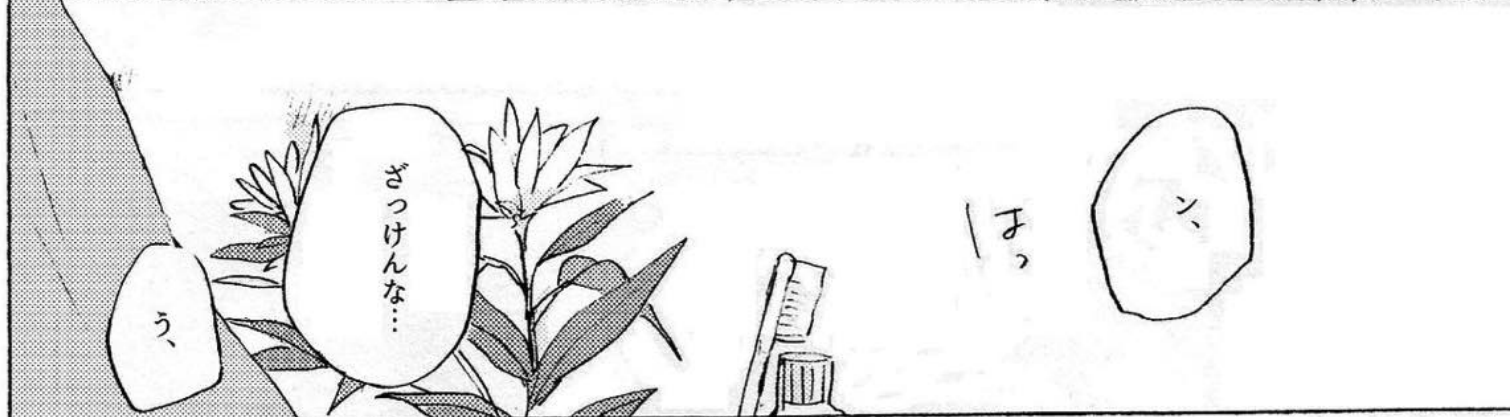




嫌がらせが  
過ぎるぞ手前……



云うことの二つや  
二つ、聞けないの？



う、  
ざっけんな…

ん、  
ほっ



中也  
私のも触ってよ

はあ、  
ん、

キッ  
……ん



黙ってて

どうなん…っだ、よ

んなどこ  
指突っ込んで

ん、う

ほみ、



その日から 毎日何度も 身体を重ねるようになった





男の喘ぎ声なんて  
聞きたかない

ん~~~~

っは、

ツセエ……んっ

は、  
ん

ぐぐぐ  
ぐぐぐ

クン

う、あっ



は、

ん……く



もっど……  
締めつけてっ

はあ

イイっ



はあ



キスはしなかった そんな感情なんて なかったから



そう思いたかった



ちやんと  
殺してよ

隠しごと、ふたつ

はあ

いくら休戦中とは  
言っても

こうも仕事を  
共にするとなると

やる気が  
失せるものだね

ああ？

手前が勝手に  
嗅ぎ付けたんだろが

久しぶり

中也



暇つぶしにも  
なりやあしない

疲れた  
余裕だったなあ



まあ私たちが  
距離を置いていることは  
把握されていたから

残念ながら  
これだけだ  
雑魚だねえ

かなり裏手から  
回っていたようでは  
あったけど



『マフィアの構成員買収  
を企む犯罪組織』  
…ねえ…?」

情報は  
これだけか?



で?

今回の目的は  
これとは別だろ?



この組織データ  
一応こつちでも  
預らせて  
もらうから  
人來ないうちに  
処理もよろしく

へーへー

あれから十年近くが経った

俺たちの齢は二十二だ

今日とて此奴は

終始

仕事になんざ興味ない

ような顔だった



見計らった

ように

わざとらしく云った



トンボか

秋だね

は…

手前、餓鬼んころ

よく捕まえようと

してたろ

捕まえられな  
かったけど

正直何でも  
よくて

そこらにいた  
カマキリの中で  
大きいのを捕まえた

逃げられた  
けど





あの時のすべての出来事を

今なら思い出話に  
してやれる

普通なら

いろんなことを思い出して

懐かしいな とでも  
云うのだろう



思い出したくないようで 思い出したい過去のことを 口にするのに勇気がいた 怖くて



人殺しが 過去を語るのが怖いなんて 笑える



お前の  
嫌がらせは  
芸術的だった



何のこと  
かなあ

でも この人間相手には すべてのことが怖かった



手前に  
ずっと  
隠してたことが  
ある

そのカマキリ  
逃したのは俺だ



太宰…

なんだい



逃したんじゃない  
殺しちゃ  
まった



…



人間なんざ  
相手にしていない  
ような目で

虫を眺める  
太宰が不気味  
だった

怖かった

儚かった

もうよく分からなかった



蓋を開けたら

びよんて

逃げちまったから  
捕まえたら

潰れちまった



…ふふ

どうして  
云えなかったの？

ポートマフィアの  
悪でしょう君

虫一っ  
殺したくらいで

どうしたのさ

ふふ

分かんねえ

でも



お前を落とし  
ちまった時の  
気持ちと、

カマキリを潰した  
時の気持ち  
が  
ひどく似てたんだよ

一寸

私は虫けらと  
同じといふことか？

手前の中の何かを  
奪って潰した感覚だ



中也

私も、

君に一つだけ

隠しごとを  
しているよ





あの時

中也に  
落とされた時

私は死なないのを  
分かっていたよ

はじめから



……っ！

中也のせいにして

つきまじりずっと  
看病してもらって



セックスまで  
したんだ

死ぬほどね

あの時から君は  
私のものになったのだよ



手前…っ

どういう意味…！?

!?



もしかして


ずっと分かって  
なかったのかい？

今の今まで？



あんなところから  
飛び降りて

私が  
死ぬわけがない




中也を手に  
入れるためなら  
自殺未遂だってする


身体中に傷を  
つくる

そういうことだ

君のこと  
手に入れてみたいと  
思った



手に入れられる  
と思ったのだよ



嬉しかったなあ

君がずっと  
そばにいるの

セックスが  
できたのも

つザけんな！

っ俺が…

っ！

俺がどれだけ  
手前に振り回されて  
きたと思っていやがる！

ふっ

でも  
私を落としたのは  
中也だ

中也のせいなのは  
間違いではないよ

太宰が怖かった 否、太宰から 嫌われるのが怖かった

君もそうでしょう

私にずっと  
色目をつかっていた

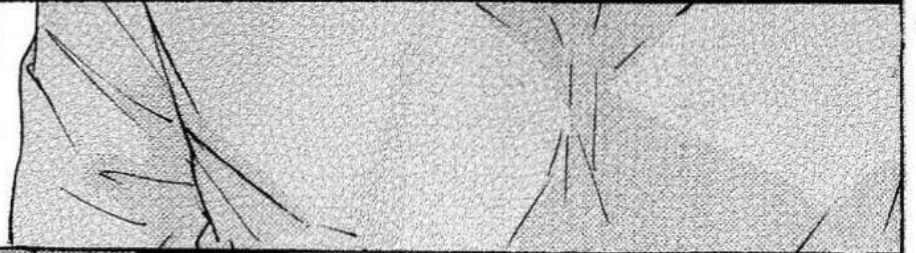
分かっていたよ

私はそういうのには  
鈍くない

きっとお互いそうだ 年月に任せて 思い出のように振り返ることしか出来ない



俺はずっと 太宰が好きだった そういうことになる



君に 隠しごとがあって

中也 実はもう一つだけ



君はもう  
私のものだ



君が手を振りかざした時

タイミングを合わせて

自分で落ちたんだ

中也が落としたふうに見せかけて

私の隠しごとは このふたつ

もう取り返しのつかないところまで来てるでしょう

うふふ

でもこれは 死ぬまでの秘密





お手にとっていただき、ありがとうございます。

ややこしいお話でごめんなさい。「???」となった方もいらっしゃると思うのですが、この本の章は時系列順ではないです。時系列で並べると

プロローグ→狂わされた日→ちゃんと殺してよ→隠しごと、ふたつ→ブライス・セックスの順番になります・・・なので、もし意味不明だと思った方はもう一度この順番で読んでみてくださいと嬉しいです。それでもわからなかったら、・・・すみません。

芸術的な嫌がらせと、包帯下の身体の傷についてごちゃごちゃと考えていたらとんでもない話になりました。

太宰が少しサイコパスチックになってしまいました

何はともあれ、二人はお互いのことが大好きなので、許してください。

ありがとうございました

20160904

『隠しごと、ふたつ』

たのしいなあ！/うれしいなあ

prrink@yahoo.co.jp

あかつき印刷様

twitter @uresi\_

pixiv 18162060

# 隠しごと、ふたつ

#00 プロローグ

#01 狂わされた日

#02 プライス・セックス

#03 はやんと殺してよ

#04 隠しごと、ふたつ

DAZAI × CHUYA

Presented by TANOSHI-NA!

20160904

